

2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費		事業 執行済額	年度別執行額			30年度見込
前回	今回 (前回差)		~27年度	28年度	29年度	
6,737	6,737 (±0%)	2,936	855	529	1,552	2,282

(1)現状及び見通し [評価(A)・B・C]

- 平成29年度は橋梁下部工(2橋)に着手。
- 平成30年度は橋梁上部工(2橋)に着手予定。
- 地籍調査が未実施であるため用地取得に時間を要しているが、平成30年度までに取得完了予定。
- 平成32年度の完成を目指す。

(2)期待される効果 [評価(A)・B・C]

- 現道の急カーブ・急勾配・異常気象時通行規制区間を解消することで、安全・安心な自動車交通が確保される。
- 川内村から総合磐城共立病院へ向かう際の広域迂回を解消し、緊急搬送時の時間短縮を図る。(常磐道利用より約20分、国道6号利用ルートより約40分短縮)
- 常磐道を利用していた物流ルート(川内村~いわき市間)の広域迂回を解消し、東日本大震災からの再生に向けた産業振興を図る。
- 上記により地域住民の帰還促進が図られる。

(3)事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向

[評価(A)・B・C]

- 平成27年度に、トンネルを含む延長3.3kmの区間が直轄権限代行事業に採択された。
- 福島復興再生特別措置法に基づく国の避難解除等区域復興再生計画(平成25年3月策定、平成26年6月改定)において、帰還市町村の生活を支える道路整備事業に位置づけられている。
- 平成28年6月に川内村の「避難指示解除準備区域」が解除された。

(4)評価指標の状況 [評価(A)・B・C]

評価指標	採択時 (H23)	前回 (H25)	完成時 (H32)	備考
幅員狭小区間	—	8.6km	解消	幅員6.0m未満
急カーブ箇所	—	176箇所	解消	半径80m未満
急こう配区間	—	32区間	解消	こう配9%超過
異常気象時通行規制区間	—	14.0km	解消	連続雨量120mm
第三次救急医療施設への 救急搬送時間	81分	81分	56分	川内村役場~いわき市 立総合磐城共立病院

【その他参考となる数値】

- ・現況交通量(H27) 577台/日
- ・将来交通量(H42) 800台/日

(5)費用対効果の状況・要因の変化 [評価A・(B)・C]

$$B/C = \frac{89.3+8.1+0.8}{194.6+3.2} = 0.50 \quad (\text{前回値}0.53)$$

- ・[B]道路事業における総便益(走行時間短縮便益+走行経費減少便益+交通事故減少便益の合計)
- ・[C]道路事業に要する総費用(道路整備に要する事業費+道路維持管理に要する費用の合計)

【参考値】

$$B/C = \frac{89.3+8.1+0.8+25.7^{*1}}{194.6+3.2} \times 1.590^{*2} = 1.00$$

*1:追加便益:25.7億円(迂回の解消効果、冬期交通の効果、CO2排出削減効果、救命救急へのアクセス向上効果、防災効果)

*2:地域修正係数:1.590(浜通り)

(6)コスト削減の取組・代替案の検討状況 [評価(A)・B・C]

- ・盛土について、他工区との流用調整により土砂を有効利用。
- ・代替案については、切盛土を少なくし最も経済性に配慮した道路計画であり、ルート変更の可能性はない。

3 評価

(1)県の対応方針案

(2)理由

事業継続

前回評価時とほぼ同様の効果発現が見込まれ、当事業が川内村住民の帰還促進、医療を含めた生活の安定に寄与することから、現計画のとおり整備を進める必要がある。